

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2771100902		
法人名	医療法人 徳洲会		
事業所名	グループホーム 三田		
所在地	大阪府岸和田市三田町134番地		
自己評価作成日	平成22年5月1日	評価結果市町村受理日	平成22年7月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム三田は、周囲に小学校、幼稚園、古墳、ため池や住宅に囲まれ、緑豊かな自然環境の中にあります。建物は平屋で天井が高く、開放的で明るいです。介護老人保健施設 徳洲苑が併設されていることにより、行事等の催し物への参加ができます。医療、防災面、緊急時の対応等は連携を図り、協力体制ができています。各居室はトイレと洗面所付きでプライバシー保護には配慮しております。入浴は週3回は入って頂けるように支援しております。家庭的な雰囲気の中で、利用者様一人ひとりがゆったりとした生活、穏やかに楽しんで表情明るく笑って過ごされることを目標に、利用者様に寄り添う介護、支えあう関係を大切にケアの実践に日々取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2771100902&SCD=320
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成22年6月11日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームの前からは、池や丘陵が眺められ、自然に恵まれた環境にある。リビングは天井が高く自然光が入り明るく、居室にはトイレ、洗面所が付いた全体にゆったりとした設計で、利用者が落ち着いて明るい表情で暮らしている。併設の岸和田徳州苑と協力体制が整っていて、職員の研修に特に力を入れていて、今年は接遇を見直し、実践に生かしている。今年のテーマは、「気づきの心、寄り添う心、敬う心」で、利用者が家庭的な雰囲気の中で、穏やかに過ごせるよう支援に取り組んでいる。緊急時にも徳州苑との協力体制で心強い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と事業所独自の理念があります。事務所内・フロア掲示板と見やすい位置に掲示しています。職員への意識づけとして、名札裏に携帯し、全員が理念の実践に取り組めるよう図っている。	地域密着型のサービスを目指した事業所独自の理念をつくりあげている。理念は事業所内に掲示し、また名札の裏に記載して、管理者、職員全員で実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的にボランティアの訪問(泉州昔語り・詩吟・アコーディオン演奏・紙芝居・フラメンコ)など様々な催しで利用者様と交流を図って頂き馴染み関係ができています。幼稚園児・小学生児と交流する機会があります。	地域ボランティアの訪問で、交流が図られている。また、近隣の小学校の運動会見学・保育園児の慰問等多方面の地域との交流が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々への貢献は十分できていません。認知症ケアへの理解・高齢者向け支援方法について、併設施設と共に協力し、今後取り組めるように努めていきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回のペースで開催している。常に現状報告し意見交換・情報交換を行い理解を深めて頂いています。他職種との連携を図りサービス向上に取り組んでいます。	2カ月に1回定期的に行われ、利用者、家族、自治会長、市高齢課職員、法人施設長、法人看護師長、法人事務長の参加で、双方向的な会議をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	直面している防災設備について情報収集に努め、市との連携を図り、課題解決に向けて取り組んでいる。市主催のフォーラム・研修に参加し、認知症ケアへのサービス向上に取り組んでいる。	市高齢者介護職員との日頃からの連携、情報交換を密にして、事業所の各種の実情やサービスの取り組みを話し合い、協力関係を築いている。市主催のフォーラム、研修会に参加し、ケアに生かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設での内部研修で制度の理解を深め、周知徹底を図っている。身体拘束の禁止に努め、拘束ゼロを奨励し実行している。玄関は日中開錠し、いつでも散歩・外気浴ができるようになっている。	管理者、職員は、内部研修で鍵をかけることの弊害や身体拘束をしないケアを理解し、身体拘束排除に取り組んでいる。玄関は施錠されず、いつでも自由に出入りができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の他、併設施設での内部研修で学ぶ機会があり、職員一人ひとりが心がけている。記録や身体の状態観察・精神状態の把握に努め職員による虐待に注意を払い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解は全ての職員が周知できているとはいえない。併設施設での内部研修で学ぶ機会があるので周知を図っていきたい。必要とされる利用者様へは、相談員と連携を図り、関係機関へ依頼し対応行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書・契約書の説明を十分に行い、家族様の理解と納得の上に契約を交わしている。家族様からの質疑にはすべて応じ、不安のないように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関とフロア内に設置し、利用者様や家族様が気軽に要望を出して頂けるように配慮している。面会時、職員は会話の中で家族様の思いを察知し、真摯に受け止め運営に反映させている。	苦情相談窓口の設置、意見箱の設置、また年1回無記名のアンケートを採り利用者、家族の要望、意見を聞き取る工夫をしている。家族会や家族の訪問時にも、意見を傾聴してコミュニケーションを図り、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の仕事の中でも職員の意見を聞き取り、利用者様についての情報収集行っている。職員会議では意見交換し、情報を共有し改善に取り組んでいる。	毎月1回定期的に開催される、グループホーム会議で、管理者は職員の意見、希望、提案等を十分に傾聴し、又職員との日頃からのコミュニケーションや話し合いを図り、それらを、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が意欲を持って働けるように、役割担当がある。人間関係や個人の思い・向上心が損なわれないように職場環境を整え配慮に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の他、併設施設や同法人の研修に参加する機会があり、全員で意識を高めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国・認知症、大阪府社会福祉グループホーム協議会、岸和田市事業所連絡会に入会し、ネットワークづくりと情報交換の場を確保している。相互研修も実施し、他施設のケアに触れサービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接時は、落ち着いた雰囲気の中で話して頂けるように、一緒にお茶を飲むなどし聞き取りを行っている。不安を抱かれないように気配りし、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護に対してや生活面などで、困っている事など家族様の思いを理解し聞き取りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人状態と生活状況等について、把握する中で事業所だけで抱え込まず、他のサービスの利用も検討し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の生活歴の把握に努め、楽しかったこと・一番うれしかったこと・教えてくださる生活の知恵などを共に共有し、本人の個性が発揮できる場面づくり、支えあえる関係づくりに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お花見・夏祭り(併設施設開催)・遠足・クリスマス会等で一緒に楽しい一時を過ごして頂き、家族様との絆を大切に支援している。職員との情報交換の場でもあり、何でも話し合える関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚・親交のあった方の面会の際は、馴染みの関係が断ち切れないように、話しやすい雰囲気を提供するようにしている。	アセスメントにより、利用者の生活歴や家族からの情報を収集して支援をしている。馴染みの人の訪問、電話等、従来の生活の継続性を確保し、馴染みの人や場所の係わりを損ねない支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士と一緒に作業し物づくりをされたりとろんな場面作りを工夫し支援している。その際、不快感や孤立されないように見守り、共に楽しい暮らしができるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様の個別な事情により契約が終了した際は、本人のこれまでの生活状況等あらゆる情報を提供し、併設施設の相談員と連携を図り協力体制にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に定期的に聞き取りを行い、したいこと・して欲しいこと・してみたいこと事など本人のありのままの思い希望を汲み取るよう努めている。	定期的に利用者の様々な思い、希望、苦情、意見等を聞き取り、利用者の生活の自己決定や意思表示を大切にしたり、心身や暮らしの情報の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族様よりアセスメントし情報収集に努めている。その人らしいありのままの暮らしが支援できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の残存機能を活かし、できる事はなるべく自分で行って頂き、出来ない事へは一部介助等、段階毎に支援をしている。身体状況や心身状態の把握に努め取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の目標に合わせて、現状把握に努めている。目標はあまり高く設定せず、本人のできる範囲の介護計画を策定している。モニタリングの結果を家族様へ報告し、職員にも周知し結果を活かすようにしている。	アセスメント・シート、個人記録、業務日誌、本人、家族、医師、職員等から個別ケア情報を収集し、これらを基に介護計画書が作られる。月1回の職員会議で検討され、現状に即したケアに取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	随時、アセスメントとモニタリングを繰り返し、状態変化や早期対応に努め、情報の共有を図り実践に活かしている。介護計画に沿って1ヶ月ごとに評価し、3ヶ月後は総合評価して次の介護計画策定に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態変化や家族様の状況に応じ、柔軟な対応ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人を支えていくために、理容・ボランティア・介護相談員・食品納入業者など、地域の人々との関わりを大切に少しでも豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携病院の医師が可能な限り週1～2回往診ある。受診時はご家族様の意向を聞き取り、話し合いや協力のもと、適切な医療が受けられるよう努めている。	本人及び家族の希望を尊重し、かかりつけ医を決めているが、ほとんどが事業所の協力医療機関を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師が1名兼務しており、健康管理への支援している。急変時など早急に対応できるよう連携を密にしている。毎日、夜勤者が引き継ぎの際、健康状態の報告行い情報の共有に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際、介護サマリーを作成し、情報を提供している。併設施設の相談員が協力体制にあり医療機関との情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化により、早期に家族様に現状報告を行い医療行為が必要となった場合や継続が困難で重度化した状態である事を十分に説明し、ご家族様と相談して方針を決めている。併設施設の相談員が他のサービスが受けられるよう支援行っている。	重度化した場合には、本人、家族、主治医、看護師、職員で話し合い方針を決め、併設施設の相談員が他でのサービスの支援を提供しているが、入居時でのコンセンサスが見られない。	入所時に、重度化した場合や終末期に向けた方針を明示し、本人・家族に説明し同意を得え、方針を共有しておく事を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員へのマニュアル周知徹底を図っている。異常の早期発見と対応ができるよう実践して取り組んでいる。夜間の急変時や事故発生時の対応は併設施設と協力体制が確立できている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自衛消防訓練は年2回、日勤帯・夜勤帯を想定し実践できるように取り組んでいる。併設施設の職員が応援協力体制にある。また、地域の町会と連携を図り協力が得られるよう取り組んでいる。	年2回定期的に消防署の指導で避難訓練を実施している。緊急時には、併設施設の職員の応援もえられ、又地域の青年団の協力体制も整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	教育計画の中で、個人情報やプライバシー保護・接遇について職員の意識改革に取り組んでいる。	内部研修でも取り上げ、利用者への言葉かけや対応に注意して、利用者の誇りやプライドを損ねない対応がされている。個人情報の漏洩防止にも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図り、会話・表情からご本人の思いを察知し、寄り添う介護でニーズを満たして頂けるように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の流れは一応あるが、本人のペースに合わせ、個人の意思を尊重できるように支援し、職員本位にならないように心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みや意向に応じた服装をして頂いています。月1回の訪問理容で髪型の身だしなみの支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食時は利用者様と職員と一緒にテーブルを囲み食事を楽しんでいます。下膳はできる範囲で本人の負担とならないよう見守り行い支援しています。	毎週日曜日に利用者と職員で、献立会議を開き、希望や好みに添って作っている。毎日リビングに、利用者の書いた献立が貼られて、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合わせた量や切り方を工夫し、毎食の摂取量・水分摂取量の把握に努めている。好物や季節感のある食材を取り入れ、体重増加にならないように栄養のバランスに配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕のハミガキや食後のうがい、義歯の夜間ポリドント洗浄を支援し清潔保持に努めている。連携歯科医院があり、歯の治療や歯科衛生士による口腔ケアを往診で受けることができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンの把握に努め日中は尿パットと布パンツで対応している。本人サインを察知しトイレでの排泄支援・定期的な誘導を支援している。見て分かりやすい場所にパット入れを設置して自立支援を行っている。	一人一人の表情や行動で排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援しているが類型化はされていない。	個々の排泄チェックシートを作成することで、排泄パターンが判り、トイレでの排泄や排泄の自立支援が促せることを期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便チェックを行い状態把握・様子観察を行っている。飲み物や食事メニューを工夫したり運動量の確保や腹部マッサージなどで自然排泄への支援を行っている。便秘症の方は医師に相談し随時対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を目安としているが、毎日入浴できる体制である。ひとり入浴を支援し、プライバシーへの配慮行っています。必要に応じシャワー浴・足浴などの柔軟な対応も行っています。	週3回と決めているが、利用者の希望にあわせて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活リズムを崩さないように、好きな時間に休息・臥床して頂いています。日中の活動量を確保し、安眠できるように努めている。居室の環境整備に気配りしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が正しく服薬介助できるよう個人処方箋をファイルしている。服薬は個人別に分けて、一人ひとりの服薬確認と状態確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の意欲を引き出し役割を持つことによって、自信を持って頂き、生きがいのある生活ができるよう努めている。レクリエーション等の支援で気分転換を図り、生活の活性化に取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ひとりで散歩される時はさりげなく見守りし、事故のないように努めている。本人希望に沿って、外出や外泊・旅行に家族様も支援されている。	日常的には近隣の散歩、買い物などで支援している。季節ごとの外食や、初詣、お花見、夏祭りなどに出かけている。本人、家族の希望で、お墓参り、旅行、外泊もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をもつことで安心されたり、自分で併設施設でのジュースの買い物ができる喜びを感じておられます。所持金については随時ご本人と確認しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内に公衆電話を設置しています。ご家族様や親戚・知人への年賀状、暑中見舞いなど本人の手書きでの援助を行い、大切な人との絆を断ち切らないように努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリーの設計で、フロア内・浴室に手すりを設置し、安全面には十分配慮している。常に利用者様の視点でより良い生活・安心感を提供出来るように取り組んでいる。	リビングは高い天井からの採光で明るく、壁には利用者の作った季節の飾りもの、作品が飾られて、生活感・季節感を採り入れている。玄関前には、ベンチが置かれ、周りの自然を眺め癒される工夫もされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	固定位置の椅子とは別に、玄関前・フロア内に一人になれる空間づくりに配慮している。気の合った利用者様同士、居室での談話を楽しまれ過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具・思い出の品物・写真など家族様の協力で落ち着いた空間づくりと環境整備で居心地の良い安らげる居室の工夫を援助している。	居室はゆったりした広さで、ベッドが真ん中に配置され、支援や動作に配慮されている。また使い慣れた家具、思い出の写真、テレビなど持ち込まれ、各居室ごとにトイレ、洗面台が設置され、居心地よい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の目線に合わせ、展示物は掲示している。なるべく大きく表示し分かりやすいようにしている。安全に行動できる環境整備に取り組んでいる。		